

ミタカトライアングル計画

—市内観光資源をつなぐ—

タウプラ

黒宮優希, 古畑昂大, 萩原脩策, 天野雄喜, 谷山剛健, 小見心愛, 佐直拓実
ゼミ教員：後藤康浩

亜細亜大学 都市創造学部 都市創造学科 後藤康浩ゼミ

キーワード: 三鷹駅南口, ジブリの森, 深大寺

(1) 研究の要旨

三鷹市には3つの回遊拠点がある。三鷹駅南口、ジブリの森、深大寺（国立天文台）である。三鷹市の入り口である三鷹駅を降り立った訪問客は玉川上水沿いに東のジブリの森に向かうか、南西に向かい深大寺や国立天文台に向かう。訪問客の流れは2方向に分散し、三鷹駅との往復で、両拠点を巡回する訪問客は少ない。せっかく三鷹市を訪れながら人が二カ所を巡回しない逸失利益は三鷹市にとって大きい。三鷹市の発展にはふたつのエリアを有機的に結び付け、三鷹駅南口で人が消費する方法が必要と考えた。

(2) 背景・目的

ゼミのメンバーで三鷹駅南口から「風の散歩道」を歩き、井の頭公園に沿って南下、『三鷹の森ジブリ美術館』に行き着いた。秋の青空の広がる爽やかな午後で、散策には最適なコンディションだったが、周りに飲食店など立ち寄れる施設が少なく、観光地として孤立している印象を受けた。また、深大寺では年代問わず多くの観光客が訪れていたが、その多くが三鷹駅南口からのバスで往復するだけだった。ふたつの観光ポイントをつなげ、三鷹市内を広く巡回するルートを構築すべきと感じた。具体的には、「井の頭公園・ジブリ地区」と「深大寺・国立天文台地区」と三鷹駅南口を三点循環する小型バスのトライアングル路線を開設し、さらにサイクリングロード、ジョギングコースなども整備する、まる1日を三鷹市で過ごせる街を目指す。

(3) 研究提案概要

進め方 二次交通の発展とサイクリングなど環境にやさしい移動手段の確保

現状 主要な観光資源間の交通の結びつきが弱い

考察 「井の頭公園・ジブリ地区」と「深大寺・国立天文台地区」が方向的に異なる一方、駅からのバスはそれぞれを往復するだけで、トライアングルのルートがないため、訪問客のしない滞在時間は短く、消費など経済効果も相対的に小さくなってしまう。